

下北沢で生まれ育って

平成18年11月20日

原告 三枝龍次郎

1 はじめに

私は、この訴訟の原告の一人で三枝龍次郎と申します。

私は、昭和19年の生まれですが、生まれてからずっと下北沢に住んでいます。したがって、もう60年以上、下北沢に住んでいることとなります。現在も北沢1丁目に住んでおり、私の家は今回の計画道路予定地に入っております。

私は、大学卒業後、昭和43年に日本勧業銀行（現在のみずほ銀行）に就職し、昭和62年には、第一勧銀調布支店の支店長を務めました。

現在は不動産関係の会社で監査役を務めております。

2 生まれ育った下北沢

私が子供の頃住んでいたのは、代沢4丁目です。当時住んでいた代沢4丁目も、現在住んでいる北沢1丁目も、非常に静かな住宅街で、住環境としては申し分ないところでした。

私が通っていた代沢小学校の横に北沢川があり、当時は、小川が流れ、よく亀をとって遊んでいました。また、雨が降って水量の多いときには、鯉も泳いでいました（写真資料1）。

下北沢は、都心から近いわりには、自然が多く残っていて、とても環境のいいところです（写真資料2）。しかも、その環境は今日に至るまであまり変わっていません。東京の他の街は、自動車の排気ガス、建物の高層化などによって、環境が悪化しましたが、下北沢はあまり変わらないまま現在に至っているのです。

3 三軒茶屋の変化と下北沢の変化 — 東京オリンピックの頃

私が住んでいた代沢4丁目は、下北沢と三軒茶屋の間にあるのですが、私が高校生の頃、代沢4丁目の人達は、三軒茶屋に買い物に行っていました。

下北沢の北口には駅前マーケットがありましたが、南口には食料品や日用品を買える店は少なく、バー、キャバレー、パチンコ店の多い歓楽街で、主婦などはあまり行かない街だったのです。

ところが、東京オリンピックの時くらいから、代沢4丁目の人達も下北沢に買い物に行くようになりました。

その理由のひとつは、三軒茶屋に首都高（首都高速道路3号線）ができ、246（国道246号線）が拡幅されて、三軒茶屋の街が分断されてしまったことです。

代沢4丁目のほうから、三軒茶屋に行くと、ちょうど南の方に向かって歩いていくことになるのですが、首都高ができてからは、日差しが遮られてしまって街が暗くなってしまいました。また、三軒茶屋は、246の北側にも南側にも商店があって、その両側を行ったり来たりしながら、買い物をしていたものですが、246が拡幅されたことによって、道路の反対側に行くのが難しくなりました。

三軒茶屋は、大きな道路ができて街が分断されたことによって、商店街としては廃れてしまったというわけです。

もうひとつの理由は、下北沢に来る人の層も変わってきたことです。

この頃から、キャバレーなどの風俗店は少なくなり、日常の買い物ができる店が増えてきました。駅の近くに、ピーコックとダイエーという2つのスーパーが前後してできました。それとともに、日用品を売る店も少しずつ多くなっていきました。

こうして、それまでは“大人の男性のための街”だった下北沢が、主婦、子供、若者、お年寄りなど、様々な人が集まって来る街に変わっていったのです。

4 シモキタを歩くことの楽しさ

今では、下北沢の通りを歩けば、右を見ると様々な種類の店が軒を連ね、左を見

るとまた違った店がずっと並んでいます。街を歩いているだけで楽しいのです。私のような60代の男性でも、女性でも、子供でも、誰もが楽しめる街は他にはないのではないのでしょうか（写真資料3）。

そして、商店街から一歩外へ出ると、今度は閑静な住宅街が広がっています。軒先を彩る草木も多く、散歩するにはもってこいの環境です。

下北沢には、三軒茶屋とは違って、街を分断するような大きな道路はありません。だからこそ、様々な人が歩いて楽しめる街が出来上がっているのです（写真資料4）。

5 さいごに

最後に、銀行に勤めていた経験から一言申し上げます。

私が第一勧銀にいた頃、銀行が支店を出す際には大蔵省の認可が必要でした。新規店舗は他の銀行店舗から一定の距離をおいて作らねばなりませんでした。

ところが、大きな道路が街の真ん中を走っている場合は別で、近間の距離でも道路をはさんで反対側に店舗を出すことができました。これは分断理論と呼ばれていました。要するに、大きな道路ができると、道路の反対側は、経済的に別の地域となる、という行政も認めた認識でした。

下北沢は、小田急線が地下化され、鉄道による街の分断が解消されます。開かずの踏み切りも無くなり、救急車も消防車もスムーズに流れるようになります。経済的にもより一体感が高まると思います。

なのに、わざわざ街を新たに分断する幅26メートルもの道路を作ることが、私にはどうしても納得がいきません。しかも、この道路は、既にある道路を広げるというのではなく、現にお店があつたり、私のように何十年も住んでいる人間の居住生活を奪ってまで作られようとしているのです。

一度破壊されたらおしまいです。手遅れになる前に、賢明な、常識ある裁判所の判断を求める次第です。

以上



1. 代沢小学校の横の北沢川緑道。
地域住民にとっての格好の散歩道。



2. 代沢3丁目の森巖寺。
境内には樹齢400年以上のイチョウがある。



3. 下北沢は若者に人気があるばかりでなく、生活に根ざした街でもある。



4. 車を心配することなく、ゆったりと歩くことができる下北沢。